

3 安心・安全な暮らしづくり

(1)米軍機による低空飛行訓練の中止等

国への提案事項

1 米軍機による低空飛行訓練の中止

- ・県民が生活する地域で低空飛行訓練が行われないよう具体的に措置すること
- ・地域行事への配慮など、県民生活への影響を回避する実効ある取組を講じること
- ・飛行ルート及び訓練内容について、国の責任において関係自治体及び住民へ事前に情報提供すること

2 騒音被害の実態把握

- ・騒音測定器の追加設置等、調査体制を充実し、実態を把握すること
- ・県内市町が設置する騒音測定器の結果について、騒音被害の解消に活用すること
また、当該測定器を順次、国の測定器へ置き替えること
なお、設置替えまでの間、市町に対し必要な財政措置を講じること

3 空母艦載機の岩国基地移駐に伴う必要な措置の実施

- ・飛行ルート及び訓練地域の関係自治体の理解を得て進めること
- ・安全対策の徹底とともに、県民が生活する地域での低空飛行訓練の中止措置を講じ、平穏な生活が乱されることがないように万全の対策を講じること
- ・米軍人等の教育訓練の徹底と厳正なる綱紀粛正を米国側に申し入れること
- ・移駐完了後における騒音被害等の影響を考慮し、必要な対策(財政措置を含む)を講じること

【提案先省庁：外務省，防衛省】

3 安心・安全な暮らしづくり

(1) 米軍機による低空飛行訓練の中止等

広島県の取組

- 外務省・防衛省職員による米軍機の低空飛行訓練等に伴う騒音被害現地視察(9月21日)
 - ・視察先(北広島町八幡地区ほか)
 - ・県・市町との意見交換会(初開催)
- 国による騒音測定器の追加設置見込

平成30年度概算要求等の状況

日米同盟強化及び基地対策等
地元の負担軽減に資する措置
仮試算において 2,413億円計上
(前年度同額)

課題

- 継続的に繰り返される米軍機の低空飛行訓練や、岩国基地への空母艦載機移駐に伴う県民生活への影響増への懸念の広がり。～騒音増大, 事件・事故等
- 国による住民の不安解消措置が必要(飛行ルートや訓練内容に関する十分な情報提供)
- 岩国基地に隣接する地域や米軍機の低空飛行訓練地域の住民生活への影響に対する対策の推進(十分な騒音軽減対策安全対策等の実施)
- 県内市町からの要望
現に生じている市町の騒音軽減対策費用に対する国の財源措置

3 安心・安全な暮らしづくり

(1) 米軍機による低空飛行訓練の中止等

広島県の実績

平成28年度 米軍機の低空飛行訓練 苦情実日数 (件数)

【県内市町から騒音等被害の情報収集】

1, 227 件, 実日数 212 日 (6市3町)

騒音(70dB以上)測定実日数 (回数)

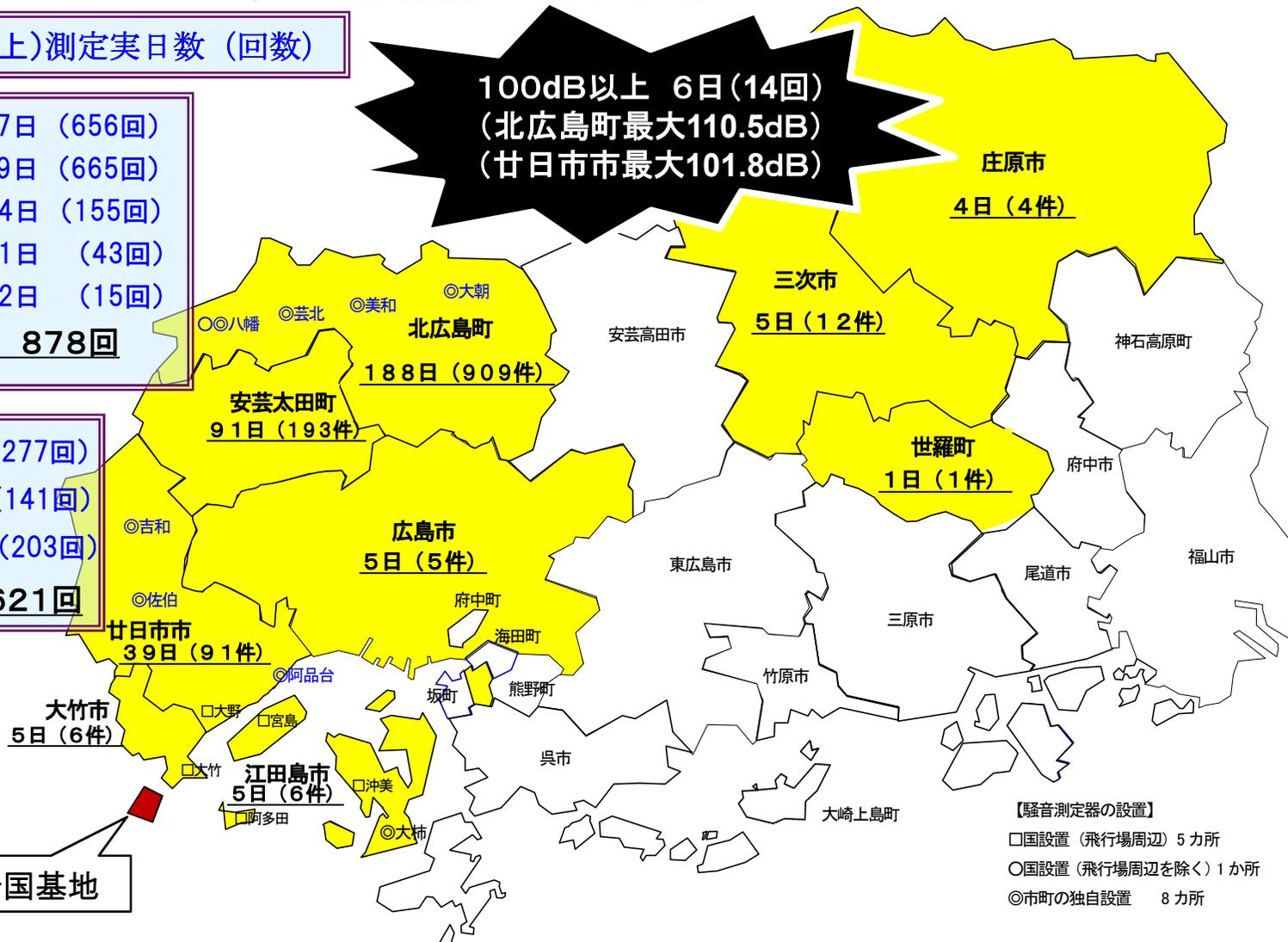
- 八幡(国) 137日 (656回)
- ◎八幡 139日 (665回)
- ◎芸北 74日 (155回)
- ◎美和 31日 (43回)
- ◎大朝 12日 (15回)

北広島町合計 878回

- ◎吉和 113日(277回)
- ◎佐伯 97日(141回)
- ◎阿品台 121日(203回)

廿日市市合計621回

100dB以上 6日(14回)
 (北広島町最大110.5dB)
 (廿日市市最大101.8dB)



岩国基地

【騒音測定器の設置】

□国設置 (飛行場周辺) 5カ所

○国設置 (飛行場周辺を除く) 1カ所

◎市町の独自設置 8カ所

3 安心・安全な暮らしづくり (1)米軍機による低空飛行訓練の中止等

騒音等による住民の被害状況

- 学校や一般家庭、役場等での行事の場から、米軍機の飛行訓練による騒音等により、恐怖や平穏な生活に影響が生じたとの被害情報が寄せられている。〔 〕は参考、同日近い時間での市町設置の騒音測定器の計測状況

北広島町

- * 午前11時半、スキー教室中、真上を超低空で飛んできて子どもたちと一緒に恐怖を感じた、耳をつんざくような騒音で生きた心地がしなかった。(H29.1.27) 〔北広島町八幡107.7dB, 11:14〕
- * 午後8時15分から9時前までの間、自宅上空を北から南に2機が数度旋回し、音を怖がり幼児が寝つかなかった。(H28.11.29) 〔北広島町八幡100.9dB, 20:31, 芸北90.1dB, 20:53〕
- * 午後2時過ぎ、3機が10回を超え、繰り返し飛んできた。1回は山頂付近ぎりぎりを飛行。爆音で会話ができない。(H28.11.26) 〔北広島町八幡106.6dB, 14:42, 芸北90.3dB, 14:46〕
- * 午前9時過ぎから午後4時過ぎまでの間、頻りに飛行が繰り返され、役場に多くの苦情が寄せられた。(H28.4.19) 〔北広島町八幡9:27~16:29 70dB以上13回, うち100dB以上5回測定〕

安芸太田町

- * 午後6時30分から8時の間、2から3機が役場上空を旋回、急降下が7~8回続き、騒音でワークショップが中断。ワークショップ参加者が音に驚き恐怖心を感じた。(10/31も会話聞き取れない・職員が何事かと驚いたとの情報)
(H28.10.19) 〔北広島町芸北87.4dB, 19:45〕

廿日市市

- * 保育園上空を行ったり来たりし飛んでおり、爆音がうるさく日常生活に支障が出ている。
(H28.11.30) 〔吉和80.4dB, 12:22〕
- * キューと降りてくる轟音の連続。葬儀の最中で、お経や葬儀屋のマイクの音もかき消されるほどだった。
(H28.12.30) 〔吉和85.5dB, 11:39〕

3 安心・安全な暮らしづくり (1) 米軍機による低空飛行訓練の中止等

空母艦載機の岩国飛行場への移駐について

- 第5空母航空団の厚木飛行場から岩国飛行場への移駐は、2017年8月以降段階的に行われる。
- 移駐計画は、今後の運用により変更があり得る可能性があるが、現時点における具体的な移駐計画は、次のとおり。
 - 2017年11月頃、FA-18(スーパーホーネット)の2部隊が岩国へ移駐
 - 2018年1月頃、EA-18G部隊及びC-2部隊が岩国へ移駐
 - 2018年5月頃、FA-18(スーパーホーネット)の2部隊が岩国へ移駐
- 空母艦載機の移駐に伴い、軍人約1,700人、軍属約600人、家族約1,500人が岩国飛行場へ移動する予定。(合計約3,800人)
- E-2Dは、2月に第5空母航空団の一員として加わり、岩国に飛来し、E-2CからE-2Dに部隊更新する。
- E-2Dは、2、3か月程度、岩国飛行場に前方展開し、配備前訓練を実施した後、一旦、空母ロナルド・レーガンに搭載されることとなります。

平成18年当時の主な変更点

	平成18年作成		今回作成	
空母艦載機の機種・機数	FA-18C/E/F	49機	FA-18E/F	48機
	EA-6B	4機	EA-18G	6機
	E-2C	4機	E-2D	5機
	C-2	2機	C-2	2機
	計59機		計61機(2機増)	
1日の標準飛行回数 (うち、空母艦載機)	389回 (空母艦載機:130回)	458回(69回増) (空母艦載機:145回 15回増)		

61機の移駐により、岩国基地配備の航空機数は、約120機となる。飛行訓練の増加に伴う騒音被害の拡大が懸念される

- 69回増の内訳
- 空母艦載機の増 (+15回)
 - 海自残留[17機] (+56回)
 - KC-130の増[12機→15機] (+5回)
 - F-35B更新 (▲15回)
 - その他(機数・機種の変更) (+8回)

※ EA-18Gは、FA-18E/F(スーパーホーネット)の騒音データを使用
E-2Dは、E-2Cの騒音データを使用

在日米軍再編計画の進捗状況



〔防衛省資料を基に作成〕

